３．教科に関する調査の各問題の分析結果と課題

（１）「３．教科に関する調査の各問題の分析結果と課題」の見方

調査問題について、出題の趣旨、学習指導要領における分野・内容、解答類型と反応率、分析結果と課題、学習指導に当たってなどを記述しています。

問題画像

調査問題を掲載しています。

出題の趣旨

問題ごとに出題の意図、把握しようとする力、場面設定などを記述しています。

趣旨

設問ごとの出題の意図、把握しようとする力などを記述しています。

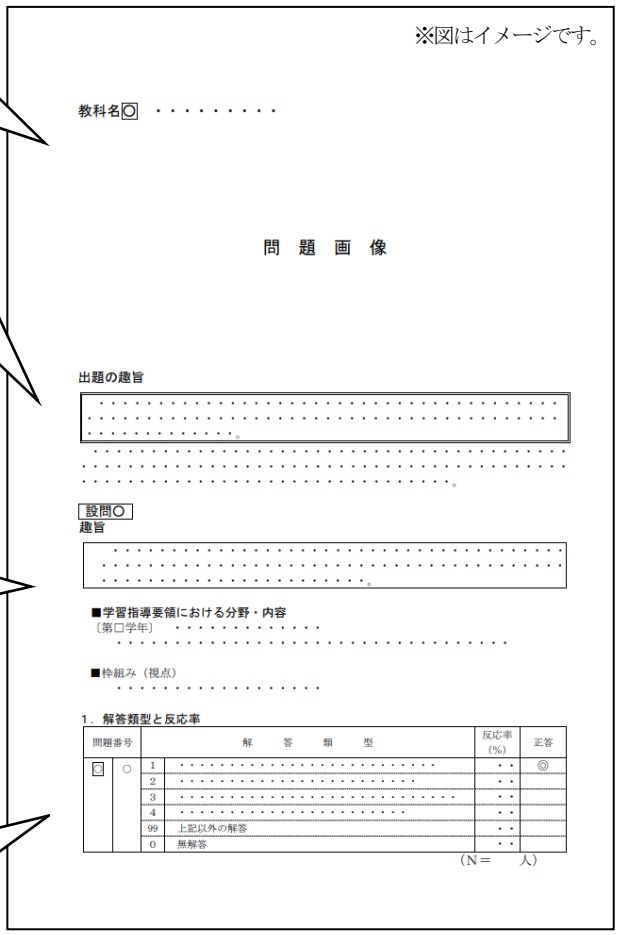
■学習指導要領における分野・内容

調査対象学年及び他の学年の児童生徒への学習指導の改善・充実を図る際に参考となるように、関係する学習指導要領における分野・内容を示しています。

１．解答類型と反応率

解答類型ごとの反応率、正答の条件を示しています。（詳細は下欄参照）

※図はイメージです。


教科名◎ ・・・・・・・・・

問　題　画　像

出題の趣旨

設問○

趣旨

■学習指導要領における分野・内容

〔第□学年〕

■枠組み（視点）

１．解答類型と反応率

問題番号		解　答　類　型		反応率（%）	正答
◎	○	1	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・・	◎
		2	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・・	
		3	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・・	
		4	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	・・	
		99	上記以外の解答	・・	
		0	無解答	・・	

（Ｎ＝　　人）

解答類型と反応率

解答類型は、児童生徒一人一人の具体的な解答状況を把握することができるように、設定する条件等に即して解答を分類、整理したものです。正誤だけではなく、児童生徒一人一人の解答の状況（どこでつまずいているのか）等に着目した学習指導の改善・充実を図る際に活用することができます。

＜正答＞

「◎」… 解答として求める条件を全て満たしている正答

「○」… 問題の趣旨に即し必要な条件を満たしている正答

※反応率は小数第二位を四捨五入したものであるため、「◎」と「○」の反応率の合計と正答率が一致しない場合や合計が 100%にならない場合があります。クロス集計についても同様です。

※分冊方式による実施のため、表の右下に母数となる調査実施生徒数を記載しています。

分析結果と課題

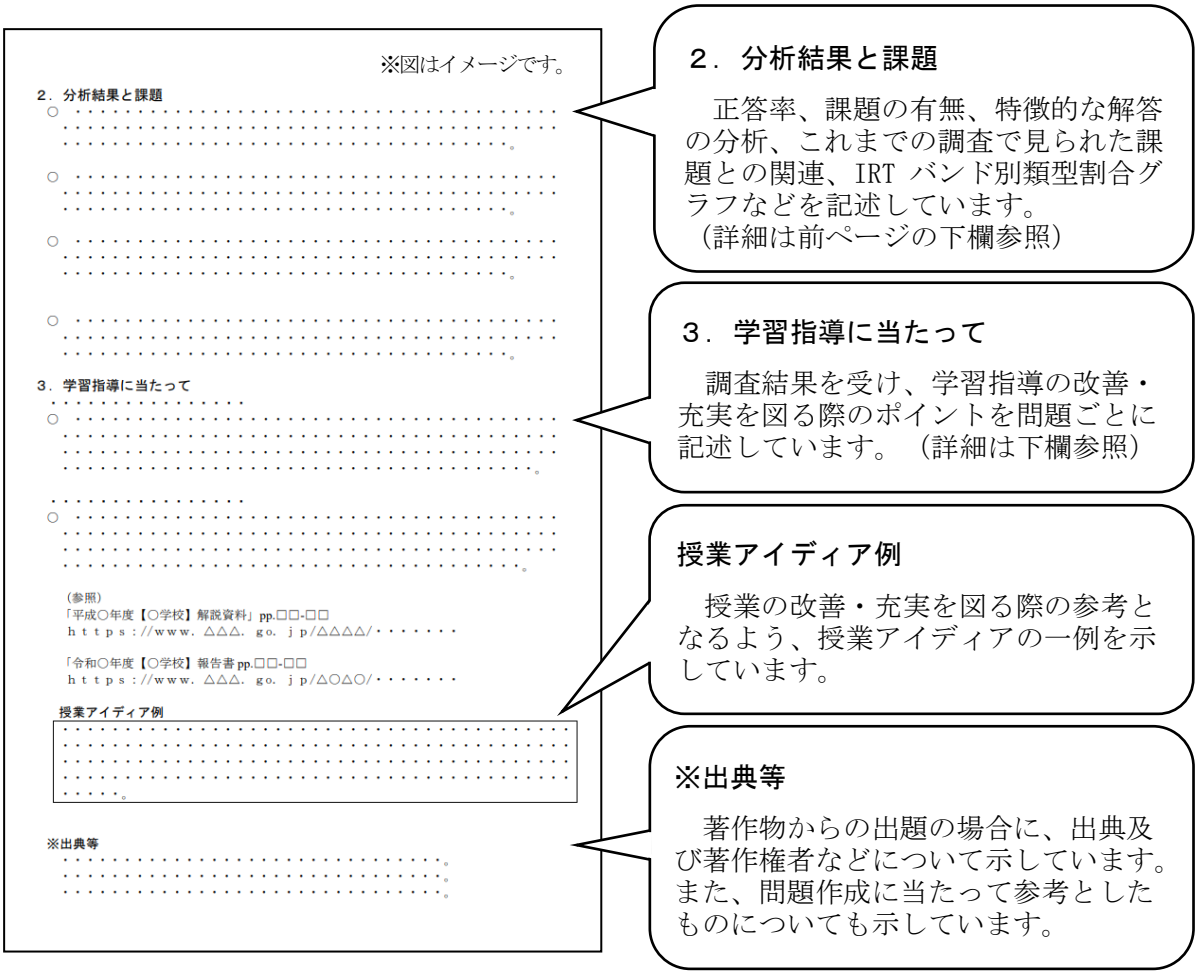
問題ごとに、以下の内容について記述しています。

・正答率、課題の有無

・特徴的な解答について、反応率、解答例、課題の詳細

・これまでの調査で見られた課題との関連

・IRT バンド別類型割合グラフ　　など



学習指導に当たって（授業アイディア例含む）

調査問題に関係する分野・内容について、各学年での日々の学習指導の改善・充実を図る際に「解説資料」（本年４月公表）と併せて御活用ください。

また、令和４年度から、授業の改善・充実により資するよう、これまで別途作成していた「授業アイディア例」を報告書に掲載し、調査結果の課題分析と課題の解決を図る事例を一体的に示すこととしました。

なお、関連する過去の調査の報告書や授業アイディア例など、これまで作成した資料の該当ページを記載していますので、これらの資料も併せて御活用ください。

本書では、以下の資料については略称を用いています。

資　　料	略　　称
「平成○年度　全国学力・学習状況調査　解説資料　○学校　○○」	「平成○年度【○学校】解説資料」
「平成○年度　全国学力・学習状況調査　報告書　○学校　○○」	「平成○年度【○学校】報告書」
「平成○年度　全国学力・学習状況調査【○学校】の結果を踏まえた授業アイディア例」	「平成○年度【○学校】授業アイディア例」
「令和2年度　全国学力・学習状況調査　調査問題活用の参考資料　○学校　○○」	「令和2年度【○学校】活用の参考資料」
「令和○年度　全国学力・学習状況調査　解説資料　○学校　○○」	「令和○年度【○学校】解説資料」
「令和○年度　全国学力・学習状況調査　報告書　○学校　○○」	「令和○年度【○学校】報告書」
「令和○年度　全国学力・学習状況調査【○学校】の結果を踏まえた授業アイディア例」	「令和○年度【○学校】授業アイディア例」

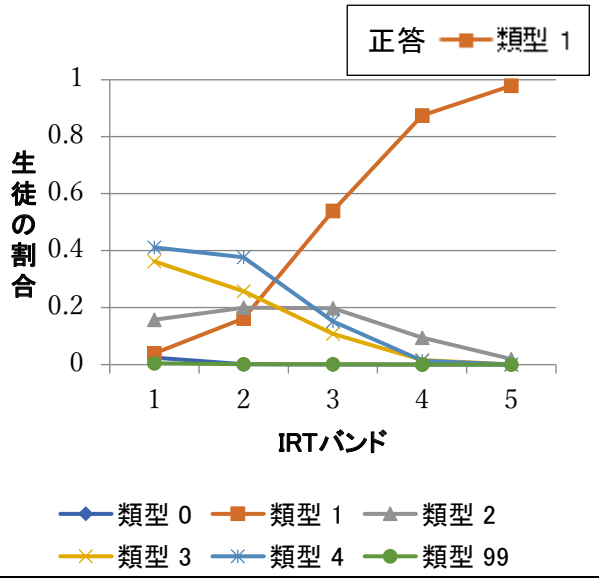
IRT バンド別類型割合グラフ(IRT バンドに基づいた G-P 分析図)の見方について

令和７年度中学校理科では、それぞれの IRT バンドごとに各設問の解答類型別生徒割合を、IRT バンド別類型割合グラフ(IRT バンドに基づいた G-P 分析図※)で示します。

(※) G-P 分析図(Good-Poor Analysis)とは、調査実施生徒の学力レベルを分類して、段階ごとに解答パターンがどれくらいの比率でいるかを示したものです。

本報告書では、縦軸を生徒の割合、横軸を IRT バンドで示しています。

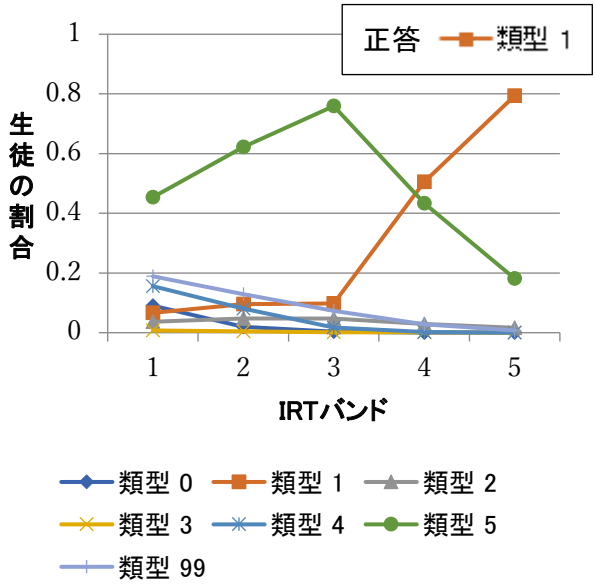
例①



正答となる類型１の折れ線グラフをみると、IRT バンド４の生徒は概ね(約８割)正答していることが分かります。一方で IRT バンド１、２に属する生徒は正答率が２割に届かず、一定の割合で類型３または４と回答し、誤答になっていることが分かります。

→本問題においては、誤答となる類型３、４の内容を分析することで、IRT バンド１、２に属する生徒の課題を把握し、当該バンドの生徒に対して指導すべき事柄を理解することができます。

例②



正答となる類型１の折れ線グラフをみると、IRT バンド１～３に属する生徒は正答率が２割未満にとどまっており、正答以外の解答をした生徒にとって、課題のある状況が推測されます。また、IRT バンド１～３に属する生徒において類型５の誤答の割合が４割以上であることがわかります。

→本問題においては、誤答となる類型５の内容を分析することで、IRT バンド１～３に属する生徒の課題を把握し、当該バンドの生徒に対して指導すべき事柄を理解することができます。